

菊に不老長寿の願いを

9日、1000年の歴史を持つ大宮八幡宮（大宮2-3-1）では、平安時代の重陽の節句に行われていたという「菊被綿（きくのかせわた）」が再現され、多くの来場者でにぎわっています。入場は無料で、9月19日まで行われます。

大宮八幡宮では、天皇の即位10周年を祝うため、平成11年に重陽の節句に合わせて菊被綿を再現しました。古式ゆかしい展示は、多くの来場者から喜ばれたため、それ以降は毎年続けて行われています。

今日9月9日は、重陽（ちょうよう）の節句です。重陽の節句は、菊の節句とも言われ、江戸時代に定められた五節句の一つです。五節句は、1月7日の人日の節句（七草粥）、3月3日の桃の節句、5月5日の端午の節句、7月7日の七夕の節句、そして9月9日の重陽の節句で、どれも大切な日とされてきました。

その重陽の節句に行われている菊被綿は、宮中の行事として平安前期の宇多天皇の頃に始まったと言われていいます。不老長寿を願って菊の香りと露を真綿に移して、顔にあてることで若さを保てると信じられていました。大宮八幡宮の境内にある清涼殿のロビーには、200本ほどの菊被綿が展示されています。その菊の花は、赤、白、黄の三色です。真綿も3色で、菊の花と同じほどの大きさの綿と豆粒ほどの大きさの真綿があります。そして、3色の積み重ね方にも決まりがあるようで、白菊の上には黄色、その上に赤の小さな真綿が、黄色の菊には大きな赤色と小さな白い真綿、赤い菊（紫）には大きな白色と小さな黄色の真綿が被せられています。



本日から始まった展示には、さっそく多くの見物客が訪れ、担当者から古式ゆかしい宮中行事の説明を受けたり、そっと菊の香りを楽しむなどしていました。展示は、9月19日までで、開館時間は午前9時～午後6時です。入場は無料です。

【報道機関 問い合わせ先】 大宮八幡宮 03-3311-0105
総務部広報課 03-3312-2111